

新春の候 宮崎県防衛協会 青年部会宮崎支部会員の皆様には、令和2年の輝かしい新年をご家族皆様お揃いでお迎えの事と、衷心よりお慶び申し上げます。

また皆様には昨年 1 年間、当支部運営に際して多大なるご尽力を賜り、この場をお借りして改めての感謝を申し上げます。

さて先月7日は、「ホテルメリージュ」で開催された宮崎県偕行会忘年会のご案内を賜り、参加させて頂いたところ、図らずも陸士 57 期 川南名誉町民 「黒木 修 氏」の隣席でした。

同氏は陸士卒業後、当時習志野にあった化学学校で毒ガス兵器等について教育を受け、その後はあの小野田少尉も在籍したスパイ養成機関として名高い中野学校を出て、相次ぐ転属命令を受けながら、新任地に移動中の日向の美々津で終戦を迎えたそうです。

刻々と悪化する戦況の中、新品少尉として国防の務めを果たそうとする青年将校の苦労話等を直接拝聴できた、久しぶりの貴重な体験でした。

3 年前に他界した父は大正 15 年生で、仄聞したところ旧制中学から満州の旅順師範に進み一般幹部候補生を目指したそうですが、風土病に罹患し断腸の思いで帰宮したそうです。

その間同期達は現地応召で関東軍に入営し、ソ満国境で武装解除されシベリヤ抑留のため帰国は終戦から 2～3 年後の昭和 23 年前後と聞かされましたが、その頃私は生まれていません。

私がこの話を聞いたのは昭和 40 年代、10 才前後の頃で、旧制中学の父の同期数名がいつものように我が家に集まり宴会が始まると、頃合いを見計らって親父の膝に座り父の同期兵達から戦争の体験談をせがみました。

酒の勢いもあってか同期兵は皆さん英雄ばかりのようでしたが(笑)、クリークやコウリャン畑などの聞き慣れぬ情景描写に欣喜雀躍しながら、嘗ての英雄達の武勇伝に切齒扼腕した覚えがあります。

そしていつも最後は軍歌の大合唱で、10 才の私も手拍子を打ち「戦友」や「麦と兵隊」などを、行ったことも、見たこともない満州の曠野に想いを馳せつつ歌ったあの頃が、黒木様のお話を聞かせて頂きながら懐かしく思い出された次第です。(笑)

また 14 日は G/H 市ヶ谷での 32 連隊 OB 会に参加し、翌朝 JAL 一番機で帰宮し新田原エアーフェスタに間に合わせましたが、このようなハードスケジュールもいつまでこなせますやら？

令和のお御代替わりの行事等もほぼ終了し、もう元号を記入する際にも間違えることはなくなりましたが、令和 2 年が穏やかな 1 年であることを願わずにはおられません。

別途ご案内申し上げますが、2月8日土曜の18時から「宮崎支部総会」をスカイタワーホテルで開催致しますので、皆様奮ってご参加下さい。

結びに祖国の弥栄と皇室のご安寧、そして支部会員の皆様にとりまして今年が素晴らしい飛躍発展の一年であることを、心よりご祈念申し上げます。

令和2年1月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦

